

報告

有床診療所の療養病床再編に関する調査

北海道医報第1057号（平成18年10月1日付）で予告していた有床診療所の療養病床再編に関する調査結果を報告する。ご協力いただいた会員各位には改めて感謝申し上げます。北海道医師会は、調査結果を踏まえ、9月19日に開催された都道府県医師会長協議会で関連質問するなど、すでに行動を開始している。今後、北海道が策定する地域ケア体制整備計画にも会員の声を適切に反映するよう努める所存である。

1. 調査対象

療養病床を有する有床診療所 133施設

2. 調査期間

平成18年8月29日から9月12日

3. 調査方法

- ① 記名式
- ② 郵送、ただし回答はファックスを使用。

4. 回収率

- ① 75施設、回収率 56.4%
- ② 2次医療圏別回収率

2次医療圏	対象有床診療所①	回答数②	$\frac{②}{①} \times 100$
南 渡 島	9	7	77.8
南 檜 山	1	1	100.0
北渡島檜山	-	-	-
札 幌	40	25	62.5
後 志	12	3	25.0
南 空 知	4	4	100.0
中 空 知	1	0	0.0
北 空 知	1	0	0.0
西 胆 振	4	3	75.0
東 胆 振	7	3	42.9
日 高	2	0	0.0
上 川 中 部	18	9	50.0
上 川 北 部	4	3	75.0
富 良 野	-	-	-
留 萌	-	-	-
宗 谷	1	1	100.0
北 網	13	7	53.8
遠 紋	3	3	100.0
十 勝	8	3	37.5
釧 路	5	3	60.0
根 室	-	-	-
不 明		-	-
合 計	133	75	56.4

5. 集計結果

(1) 医療区分・ADL区分による患者数

有効回答33施設における7月1日時点の入院患者336人について分類した。

	医療区分1	医療区分2	医療区分3
ADL 3	43	22	5
	12.8	6.5	1.5
ADL 2	33	48	5
	9.8	14.3	1.5
ADL 1	134	45	1
	39.9	13.4	0.3
合 計	210	115	11
	62.5	34.2	3.3

(下段は構成比である)

(2) 当面の療養病床の運営について

(有効回答66)

- ① 変更せず現状のままいく
51件 (77.3%)
- ② 病床区分を変更する 10件 (15.2%)
- ③ 療養病床を閉鎖する 3件 (4.5%)

- ④その他 2件 (3.0%)
- (3) 患者さんへの対応について (有効回答64)
 - ①このまま継続する 51件 (79.7%)
 - ②医療区分1の方には転院していただく 6件 (9.4%)
 - ③室料差額など保険外負担を求める 3件 (4.6%)
 - ④その他 4件 (6.3%)
- (4) 職員への対応について (有効回答:66)
 - ①現状を維持する 58件 (87.9%)
 - ②採用が必要 4件 (6.1%)
 - ③リストラが必要 2件 (3.0%)
 - ④その他 2件 (3.0%)

6. 今回の診療報酬改定に対する意見 (抜粋)

- ・特養施設のない村として、当診療所は長年にわたり病床のほとんどが療養病床であり、将来の村の医療のあり方を考慮した上で、平成16年度に改築を行い現在に至っている。しかし、今回の介護病床の廃止・療養病床の削減策は、今後の地域医療のあり方を根元から揺るがすものであり、数少ない雇用の場をもなくしかねないものである。また、今後の法改正の動向も不透明なことから対応に苦慮している。
- ・当院は療養病床がすべて介護療養型のため現状のまま運営を行っている。市町村合併で市になったが、市中心部へは1時間以上かかり、通院はなかなか厳しい。23年度の介護療養病床廃止時点で旧市街地の介護療養病床は当院のみであろうが、

当院は閉鎖を考えている。周辺の特養などは満床で新規・増設の予定も聞かないので、現入所者をどうするか思案している。

- ・当院では、いわゆる社会的入院はゼロではありません。しかしそれは「社会」の問題であり、医療機関の責任ではないと思います。それなのに診療報酬を減らすということはまるで医療機関が悪いような仕打ちで、国は説明責任を果たしていません。このような改革は到底受け入れられません。
- ・今回の改悪により病床維持は非常に難しくなっている。もともと診療所療養病床は病院療養病床より医療区分の低い人が多い。今回の改定では質を維持し今後も継続していくことは困難である。リストラをすれば病床廃止しかなく、田舎では医療機関が努力しても増員は無理である。有床診療所が診療報酬に病格差があっても田舎に多く存在するのはそれなりの理由がある。特に療養病床は診療所の病床もカウントされ、慢性期入院施設として認められて積極的に推進してきたいきさつはどこに行ったのだろうか。なにか梯子をかけられ上ったらすぐに外されたような感じがする。都会ですら不足している入所施設が過疎の田舎ではなおのこと不足している。計画案だけはあるが実現の見込みはない。このような状況下で療養病床の削減を前倒して行うことには決して納得できない。

—地域福祉部—